

平成二十七年七月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十三卷 第七号 通卷七二六号

書 象



日本書道芸術協会

2015-

7

巻頭言

草津よいとこ一度はおいで

副理事長 虎井 暁 鐘

いよいよ書象会恒例の夏季合宿錬成会の時期が近づきました。二泊三日というまとまった時間を、ひたすら書に没頭するということは普段中々出来ることではありませんので、この合宿は信山書法を学び上達させる最大のチャンスです。書象会の合宿といえば、朝から晩まで書いて書いて書きまくるのが特徴で、老いも若きも区別なくしごかれるのですが、高齢化のすすむこの頃は温泉につかってヤレヤレと疲れを癒すのがたのしみという方々も多いようです。

今回の会場となる上州（群馬県）草津温泉は、温泉大国日本広しと言えども文字どおり温泉の横綱です。日本一と言われる自然湧出量は毎分三万二千リットル、ドラム缶にして一日二十三万本にあたるそうです。また泉質は酸性で強力な殺菌力を誇り、江戸時代から湯治客でにぎわいました。この温泉の見所は、最近の映画でも有名になった壮大な「湯畑」です。散歩道につながる「西の河原」は、いたるところ足元からブクブクと温泉が湧き出していて、たっぷりと温泉気分が味わえます。また海拔一二〇〇メートルの草津温泉は自然環境にも恵まれ、すぐ背後には火山の白根山があって、頂上の「湯釜」はエメラルドグリーン。湖水が美しく、是非一見の価値があります。平均気温は真夏でも十七・五度と涼しく、まさに合宿にはベストコンディションといえるでしょう。

車でみえる方にはこんな観光コースがあります。往路は軽井沢から世界三大奇勝と言われる浅間山鬼押出の奇観を眺めながら草津に至り、帰路は白根山を経て、志賀高原を抜け、小布施、長野で観光して中央高速で東京あるいは関西方面に帰るコースがお奨めです。

「良く学び、良く遊べ」名湯草津温泉合宿に大勢の皆様が参加されますようお願い申し上げます。



1989年 日展 上條信山先生書「天空」



東流して長きこと息まず（寒山詩）

7月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は罫線入りですが、出品者は罫線のない半紙を使用してください。

楷書臨書規定【臨規】

(師範・準師範・段位)

化度寺碑

上條信山先生書



胎照靈心。澄神。

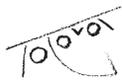
7月20日必着
出品券を貼付

・文字の「形」が正方形・縦長・横広と変化に富んでいる。これをいかに組み立てるかが腕の見せ所。

靈——行目の中心に對して文字の中心が左側にある。



心——一・二・三・四画の書き出しの位置を右上りにし、等間隔にする。



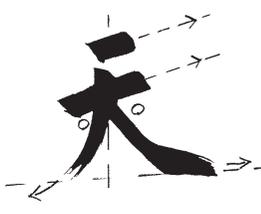
澄——右払いを伸びやかに。傍の筆順に注意する。



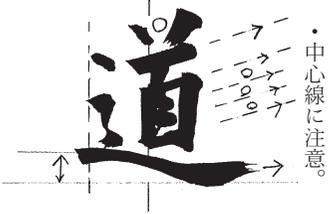


・力強く安定した右は
らいが特長の二文字
である。

「天」・左はらいの方
向に注意してのび
やかに書く。

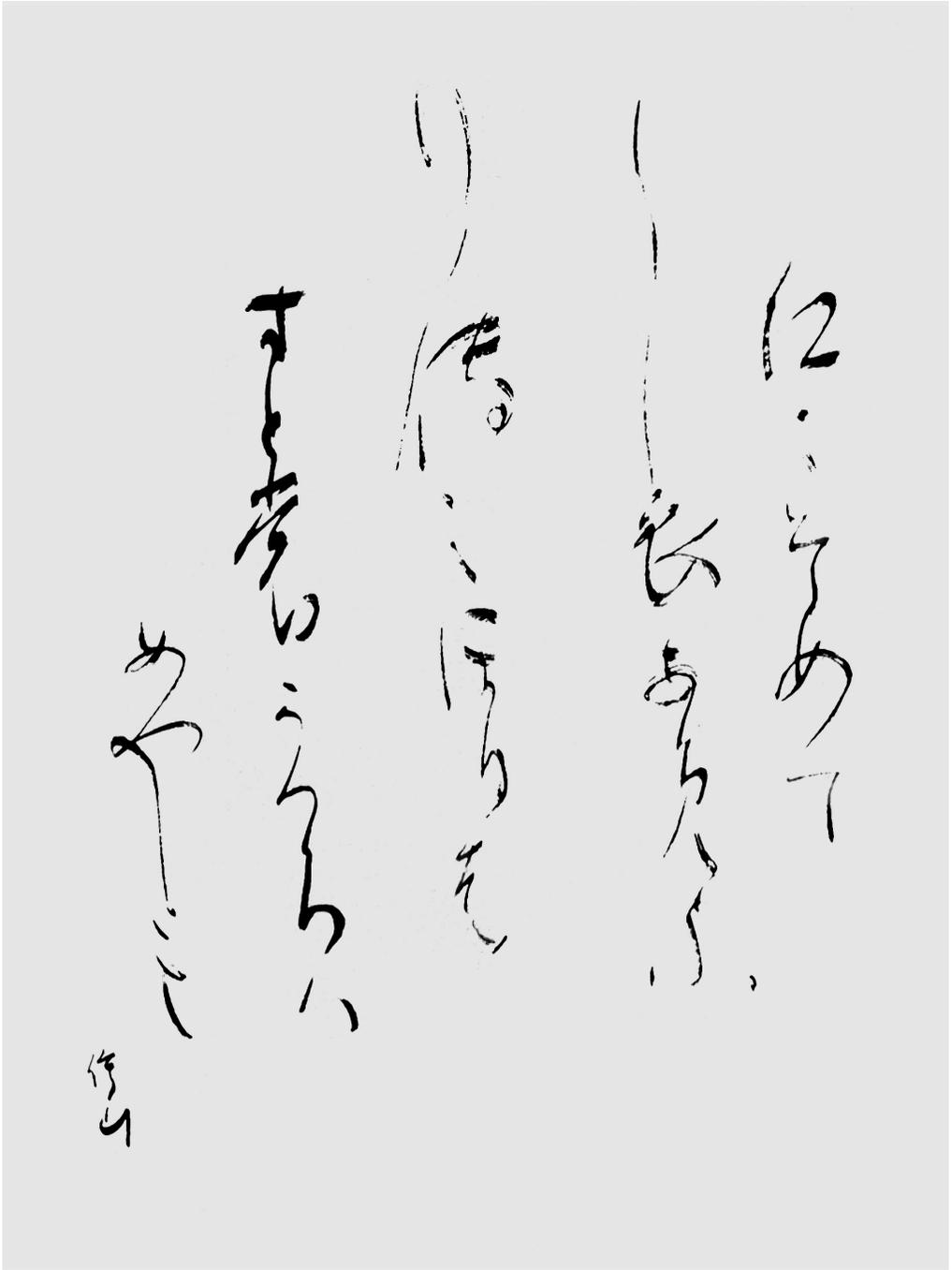


「道」・横画の平行・
等間隔に注意。
・しんによるは安定
感のある形になっ
ている。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書



紅に(二)そめてし衣あめ(免)ふりて(傳)に(二)ほひ(日)は(者)すとも(裳)うつろは(八)めやも(毛)(万葉集)

7月20日必着
出品券を貼付

・各行共ゆるやかに右へ傾き、全体の行立てに統一感をもたせます。

・大胆な動きや変体仮名は、部分的によく練習してから清書に入りましょう。



・落款は書者の名前を書いてください。

千尋

千尋

7月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

〈ポイント〉

千

中心より左は広く縦は強く



尋

「寸」の横画は「千」と平行にして伸びやかに。

横画の方向と長さに注意。



隷書条幅規定【条規】

上條信山先生書

段級位を明記のこと

賀扇動清風

賀扇清風に動く

・横画を全て水平に、間かくも等しく、字間も等しく。
・隸法の基本に忠実に落着いた作品にする。

仮名条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



何とな(那)く君に待るる(〜)心地して
いでし花のの(〜)夕月夜か(可)な(奈)

・右上・左下は墨量豊かに、右下・左上は渴筆で伸びやかに書いて全体の調和をはかる。
・「待る」「花のの(〜)」はP14参照。

雷電車山

中学一年規定 【学毛】

小渊石峯先生書

科得
目意
好

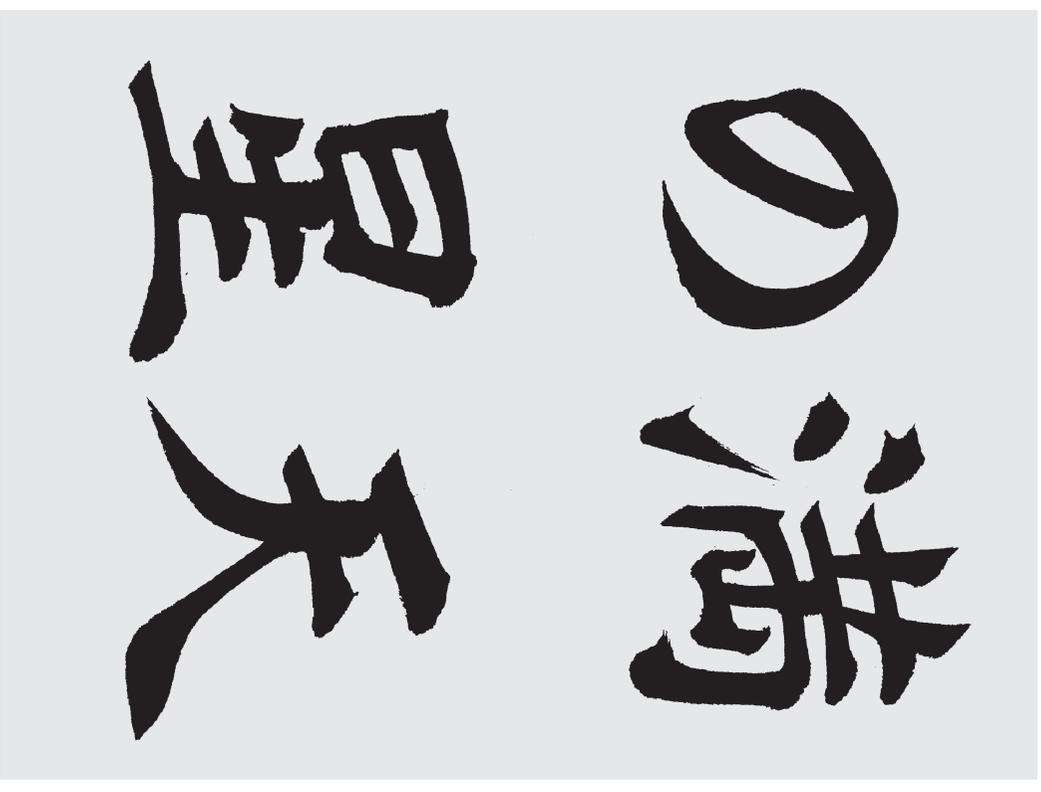
中学二・三年規定 【学毛】

内藤望山先生書



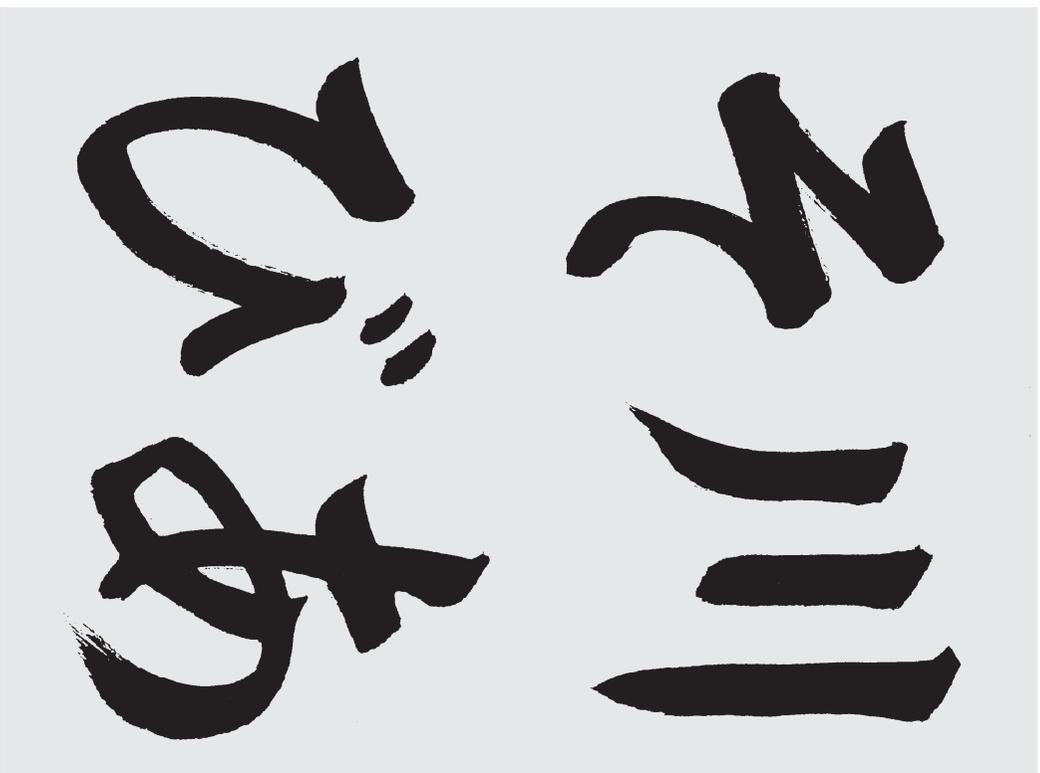
小学五年规定 【学毛】

荻田光山先生書



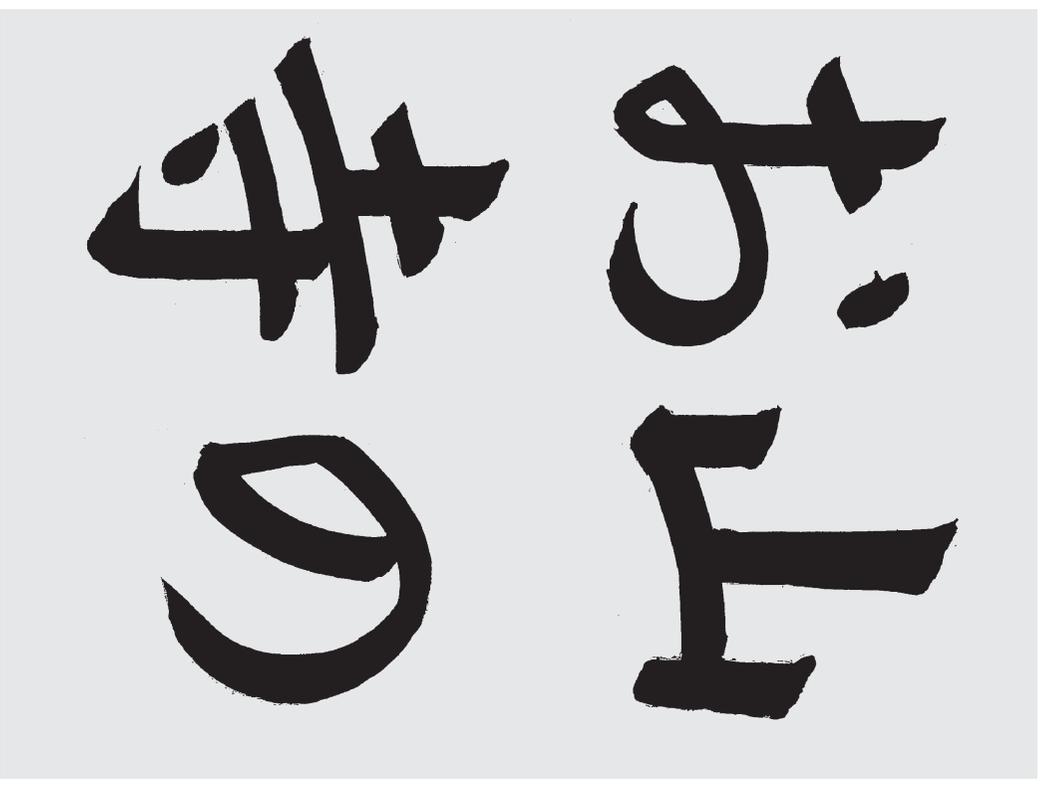
小学六年规定 【学毛】

樋口玄山先生書



小学三年規定 【学毛】

大島鞍山先生書



小学四年規定 【学毛】

宮本耕成先生書

来也

小学一年規定 【学毛】

竹内藍山先生書

得た

小学二年規定 【学毛】

石丸曉風先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

(返景入深林、復照青苔上のごときは、そのま
(万)々一幅の東洋的水墨画ではなか(可)ろ
うか。

返景入深林、復照青苔上のご
ときは、そのりり一幅の東洋的
水墨画ではなか(可)か。

一般規定【二硬】(級位) (古今和歌集 卷第九 安倍仲麻呂 内藤 望山 先生書

天の系よりさけりる小ば
春日なる三笠の山にそ
つきかり

中学規定【学硬】

虎井 曉鐘 先生書

さわやかな高原の朝、はるか
西の彼方に日本アルプスの峰々
がそびえ立つ。支那 年段 氏 名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

小 一・二年 学	白	小 三・四年 学	夏
小 五・六年 学	金魚	中 学	野原

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

手本解説

・基本 「東流長不息」は左図参照。

東流長不息
待る花の(こ)は左図参照。

学生部規定



中学二・三年

「得」の偏の二画目を長くして隣の幅と等しく。「意」は中心線に気をつけ、左右のバランスを考え字形を整える。「科」の偏と旁は二等分。旁の方が縦に長い。



中学一年

「登」の「は」がしらは傘の広がりに気をつけ「口」の上端あたりまで傘の中に入れる。「電」の横画は全て右上がりにし最後の曲がりできさえる。

雨があがり、太陽の光に
 半円形の美しいにじが二
 重に現れました。

名前 支部 年 級段

もっと字が上手になるよう
 にと、短ざくに願いをこめ
 て書きました。

名前 支部 年 級段

み	え	山
え	ま	の
ま	す	上
す		か
		ら
なまえ	田	川
支部	ん	が
年	ぼ	み
きゅうん	も	

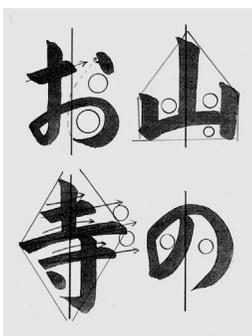
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
 作品の大きさを下へたて18cmよこ7cm 小一・二課題↓2.1cmのマスキの紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



小学六年

「満」は偏と旁のバランスを考えて、下の下部に空間をとる。「天」は横画の長短、左・右払いをのびのびと書く。「星」は日と生を平たくして組み合わせる。



小学四年

「山」の概形は五角形に。縦画の長短・折れ・画の接し方に注意。「の」は文字の中心から始筆し、中心で払いが終わる。「寺」は三画目を長くして菱形の概形をつくる。横画の長さとする方向に注意。



小学二年

「ほ」の一画目は左へふくらみを持たせのびやかに。二・三画目はほぼ同じ長さ。に。「た」の二画目は、直線で力強く一画目と交わる。「る」は最初の横画と最後の結びが中心にくるように形づくる。



小学五年

「楽」は十画目の横画を長くし、上部を安定させる。「し」はまっすぐ連筆し、払いの方向に注意する。「海」は九画目の横画が下から注意する。



小学三年

「川」は縦画の始筆・送筆・終筆の筆づかいに注意。「あ」は二画目が字形を整える柱となり、始筆・終筆が中心線上にくる。「そ」の折り返すところは、はっきりと筆を転換させ新しい力を加える。



小学一年

「ま」の一・二画目はやや右上がりに書き長さに気をつける。「ち」の一画目は右上がりとする。二画目は中心から始筆して中心で終わる。

楊大眼造像記

北魏 年代不詳

今月のテーマ

表現的臨書(B)

中字(二字〜六字)

書き方

- ①文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ②続き文字でなくても構いません。
 - ③落款を入れて下さい。
 - ④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
- (編集部)

表現的臨書

(B) 形に主観を加える

〈ねらい〉 古典の特質を失わない範囲で、出来るだけ形のデフォルメを行い、創作の香りの強い臨書をする。

〈学習①〉 対象古典の中から一字を選び、その特質を生かしたままで、思い切り縦長に強調してみる。次いで思い切り扁平に書いてみる。

〈学習②〉 次のねらいのもとに、対象古典の特質を生かして表現的臨書を試みる。

⑦ 頭部を大きく強調してみる ① 下部を大きく強調してみる
 〈学習③〉 さらに創作に近づけて、対象古典中の二〜六字ぐらいを、大小、長短等の全体構成をも考えて、表現的臨書Aの線表現をも駆使して、作品風の臨書を試みる。



〈釈文〉

弱年挺超群於始冠其百万於一掌震英勇則九宇朝

— 信山先生の自伝 —

「硯上の塵」を読む41

今年三十二回展を迎えた読売書法展ですが、青山杉雨先生と共に創設の労をとられた先生の、中国での楽しい行事、蘭亭書会の模様を楽しみましょう。これ以来多くの中国書家の先生ともご縁が深まりました。

中日蘭亭書会

昭和五十九年、在来の読売書法展に改組が加えられ、謙慎書道会、日本書芸院がこれに参加することになり、第一回読売書法展が新規に

発足した。部門は漢字、仮名、篆刻の三つ。多分野化した毎
日書道展に対し、むしろ読売
書法展はその原点に返ったの
感がある。

いよいよ始まる蘭亭曲水の宴



一九八七年（昭和六十二年）、この読売書法展を主催する読売書法会の企画で、中国浙江省紹興市の蘭亭遺址において、中日の代表書家による曲水の宴が催された。永和九年（三三三年）の暮春（旧暦三月）三日、会稽内史をつとめる王羲之が主宰となり、時の名流

四十一名を集めて蘭亭曲水の宴を催した。曲水に盃を浮かべ、その盃が手元流れてくるまでに詩が作れなければ、罰としてそれを飲まなくてはいけない。こうしてでき上った詩集に王羲之自らが序文を書いたのが蘭亭序である。この風雅な遊びを再現しようというのである。

日本からの招待参加者は次のとおりであった。

小坂奇石 柳田泰雲 広津雲仙 小川瓦木 青山杉雨 村上三島
杉岡華邨 天石東村 武士桑風 殿村藍田 梅 舒適 浅見寛洞
小林斗盞 伊藤鳳雲 近藤撰南 谷村憲斎 今井凌雪 古谷蒼韻
上條信山

手島右卿先生は急逝されたため、遺影参加となった。
次に中国側の参加者を記す。

啓 功 舒 同 沈 鵬 黄 綺 費新我 謝稚柳 顧廷龍
方去疾 沙孟海 劉 江 郭仲選 朱関田 沈定庵 王 澄
張 森 周志高 王学仲 尉天地 蒋維松 商承祚 呉丈蜀

曲水の宴では、日本側は申し合わせて全員が羽織、袴の正装でのぞむことにした。中には紋付で身を固めているメンバーもいた。

曲水をはさみ、指定された席にゆったりと腰をおろす。こんどの蘭亭書会では漢詩を書く約束はなかったので、私は「百花香」の三文字を書いた。すると古代衣装をまとった可愛い娘さんが、流れてきた盃を掬い上げてくれた。気が楽になって一気にこれを飲みほすと、胸が熱くなり、うっすらと頬が染まるのを覚えた。

なお、後日この模様は読売テレビにおいて特別番組が生まれ、森繁久弥さんの巧妙なナレーションによって放送された。

象 展

桜花賞

寒山色白雲深
絕巖摩草座山家
有
孤燈明月輪石牀
心碧澗
鹿角為
歸
日
長
幽
居
采
玉
參
外
人
封
心

春山無伴獨相來
伐木丁丁山更幽
道狹草木長
徑微石門斜
日到林丘
不貧
衣
識
金
銀
氣
遠
宮
朝
看
廉
鹿
遊
來
興
冬
然
送
出
巖
對
君
疑
是
沈
虛
舟
天
門
日
射
黃
金
勝
殿
晴
煙
赤
羽
煥
宮
草
露
承
香
環
爐
煙
細
駐
遊
絲
雲
迎
蓬
萊
帶
五
色
雲
殘
瑞
鶴
亦
多
時
待
在
雙
步
歸
青
瑣
送
客
從
客
出
五
道
戶
外
助
客
嘗
初
重
雙
瞻
御
座
引
朝
儀
香
佩
合
殿
春
風
轉
花
覆
千
宮
淑
景
移
畫
閣
禪
閣
高
閣
朝
天
顏
有
喜
近
在
知
宮
中
每
出
歸
來
省
會
送
蓬
萊
集
鳳
池
荒
外
江
頭
坐
不
歸
水
晶
宮
殿
轉
靈
徹
桂
花
知
送
陽
春
落
葉
為
詩
兼
白
鳥
飛
煙
香

大象無形

南山色蒼翠
宛若青嵐
松下視湖
水深十丈
清光足
時溪
雨止
露色
開
秋
陽
紅
吐
落
兩
葉
送
客
上
方
塘
靜
聽
煙
寺
鐘
忽
落
翠
華
微
修
珠
羅
柱
地
壁
紫
為
懸
層
月
何
盡
松
林
蔭
日
公
等
皆
好
游
戎
意
雅
相
正
入
洞
窺
乳
泉
登
崖
采
蜂
蜜
天
道
差
耳
中
夢
耳
出
又
方
出
及
奔
下
山
遂
叩
中
林
闌
山
僧
顧
我
笑
相
手
磐
石
閒
蒼
前
柱
對
白
鏡
表
荷
花
庭
琴
前
坐
雙
蓮
拂
石
影
相
拉
愛
此
精
舍
閒
留
連
日
將
暝
日
暝
未
之
愁
浮
雲
飛
紫
翠
未
之
處
止
夏
花
風



坂牛 静心



北藤 煌香



上條 賢山



有馬 花嵐

第54回

書

木蘭之袖紗紫舟玉蕭金管生向頭美酒樽中里十斛載
 双隨波任去留仙人青絡東黃雀海客之心隨白鷗足平一詞
 賦懸日月望玉臺拂雲山立與韶華筆一柱玉嶽詩成笑
 傲凌瀛州功名富貴若長在漢北亦應西北流 麗惠

古來名利看浮雲人生情信難外始見回寶相移尊戲前
 衝霍有功勳未厭金縷氣先開石櫺支朱門無復張公子
 灞亭誰畏李將軍初顧百齡皆有序居然萬化咸應改
 桂枝芳氣已銷亡柏梁高宴少何在 龍雲

昔有處にまほしの夫婦が居た水車の頼が叶とも異てもが身難つ
 たら夫婦の家が裏手に小てな窓が有たらまから見事な柳が見えたら
 杉の野菜がすくすくと育つた周りに高石垣がまはしてはけと
 守りつたおと文石垣が無くても畑にいらる者なと居なかつた恐
 い魔女の指が抱つたからば ナンクエルより 桂雲

孤鴻海上來池潢不敢顧側見雙翠鳥巢在
 三珠對矯孤木顯得無金丸懼美版惠人指
 高明逼神惡令我遊冥弋者何所慕 佳影

不雲有鳥跡
 真意



村山 麗惠



濱田 龍雲



橋本 桂雪



長屋 佳影



中内 真意

獎勵賞

江上蘊：幕武捷不知經歷幾十年：暮夏上長生日：北看小
 瀨派林水何曾離幕嶺鷗空自泛寒洲 誰堪登之望雲煙
 裏向晚茫：楚猿愁白草原頭望東卿黃河小流無盡時 魏天
 曠望所 人徒馬音東來和是誰寒而連江夜入吳平竹送客楚
 山如洛陽親友如相問一片冰心在玉壺 王昌齡詩三首 盧芳 書

碧漢歌微雨美人橫素琴
 愴前深清迥心期西澗吹
 恨尋紅笑下江始知秋氣
 天野影浮雲只自陰去健
 賦生寂寞聊吟天際去健
 銀三既亭詩三首於露訪書
 屋平成乙未夏曰秀山 書

里以ノ音ハ自然ニ寄リ添ニ六豊カノ舌界ガ包ニ
 込ム流レレ川島ノ聲ノ風ノ音雪降リソム
 初日少時ハ二カ竹ガ何垣トナリテ守リ日レ元若者 秀琴 書

終南陰嶺秀積雪浮雲端
 林表明霽色城中增暮寒
 秀山 書



竹本 谿山



高瀬 秀琴



小島 秀山



五十嵐 恵芳

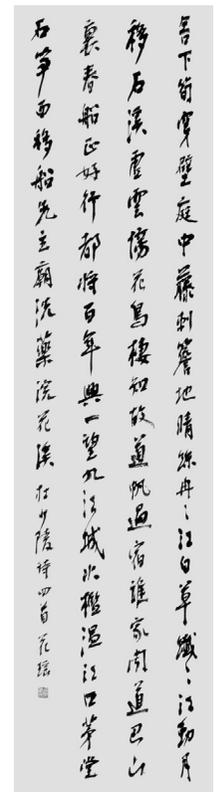
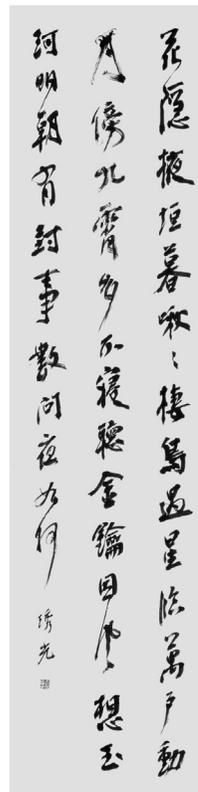
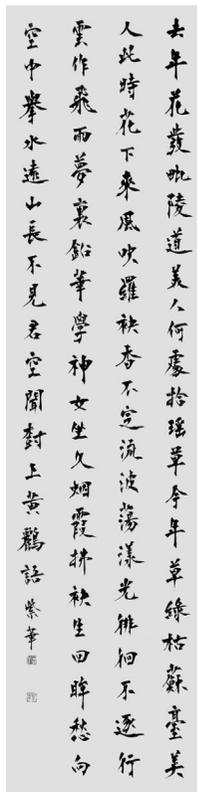
昨夜星辰昨夜風
 畫樓西畔桂堂東
 身無彩鳳雙飛翼
 心有靈犀一點通
 隔座送行香酒
 雙杯莫射座中
 喧嘩笑東鄰投壘
 管弦三弄出蘭臺
 顛狂盡踏錦瑟聲
 猶似五十弦一柱一絳一
 思華年一柱一絳一
 夢逐遊魂望帝啼
 春心託杜鰲啼海
 月照珠宮滿
 四口護玉堂
 此情可待成追憶
 只是當時已惘然
 李商隱詩 鍾嶽 書



伊藤 鐘嶽



吉見 松香



吉田 節城



山田 紫華



山下 木華



古川 瑠光



塚原 花瑠

青衿之志自首方豎無體業阿室神資長秀桂質蘭儀點露以株芳松
心然自期若新銜之管泰初前之出水入春出第邦間有名雖黃金未應無題
郭氏交朋交遊起造堂人表幸七蓮父憂寢食過禮泣而情深使曾榮更
世幸異今德既傾乾資唯坤慈溫夏清疏口承奉家貧致養不辭採運
之艱辛甘丁身艱身飲不入偷魂七朝誓力盡思備之生死既時當宜尼云挽深

沐中東兆五府無以剋加何而二平哉可若茲雖名位未二風且易俗之黃信不
足比功實象之懸崇子獨稱德至乃辭金過王之真狀板裝去織之信義力
之我君今猶古詩權德君子民父母實怒詔職運東風吹以畫地康道深法
慕是以刊石題詠以於盛美誠能我聞意揚然則詩氏燧天文體承帝神秀
卷力宣源在叢積石千尋長松刀刃軒窺圓漢羽蓋魏晉河靈岳秀月起

景飛霜神開照武誕英徽高山仰止從如歸唯德是歸唯仁是若雪鶴譽難
留清德如暹下庭薰心音遊義天心竹卷觀光玉開流級紫承華如月妙前刻
符儒徽金沂道裂錦方卷頭好養溫而霜乃如之人定國之良種之極小夫
以情洗濯此科實雲塞天淨千里開明學達禮備風教及松刀刃正野以謙
科林亦可改留我明聖何勿剪恩誅存民何以善性風化移新欽河止湯友

歎每過人孤風獨越令譽日新聲馳天禁以延中出身除奉朝請優遊文省朝
儉恭其雅尚期道以隆望如此德宣揚以照平之幸除魯昭太守治民以禮神
風如傳之痛無息於及膏若子之愛有操於心自是使學校剋備比屋清業表
衆初謀日職以登入境觀朝莫不禮讓化無心草石如變思及象木翁魚自安
除埃不補除音有成暮月而已遂令講習之音耳聲於聞里朱接之歌凌詠於

強逆津勅石番永益策將軍魯承平義王恭軍等康平殊撫民騎兵
驍威府長史征魯前治城軍主義主本郡二政立薄義主類路義主類
孤令宗永懷汝陽縣義主南城令義主武賢文陽平縣義主州主儲五金
生造頌四年正光三年正月廿三日訖郡中正爰孝仲中正類文速魯郡丞
白法相功曹史孔暉顏普魯弁新陽主蒲光元祐晉汝陽并丹

小室墨汀

270cm×70cm×5

衰榮無空在彼此
覆只云帶生瓜

田中寧似粟階
時寒暑有代謝

人道每如落遠人
解其會逝將不

復疑忽與一樽酒
口口歡相待

寺尾碩雲

273cm×90cm×4



藤 森 大 節

270cm×53m×6

第五十四回書象展特別会員推挙

今回の書象展におきまして、左にご紹介しました四名の先生方が特別会員に推挙されました。誠におめでとうございます。

この特別会員は、書象会発展のため永年にわたり特にご尽力をされた方々の中から、役員として推挙されるものであります。今後共、後学のご指導ご鞭撻くださいますよう、お願い申し上げます。



小沢 志道



阿部 香枝



吉田 梢香



磯崎 篁窓

書展昇格者紹介

◆日展会友

小湊 石峯

◆読売書法会理事

池上 湖心 渡辺 華雪

◆読売書法会幹事

上條 恵香 鈴木 草影 関澤 劔山

山崎 惜春

◆読売書法会評議員

川島 映雪 北井 珠虹 桑名 雄峯

酒井 不同 佐藤 京香 塚原 花瑤

◆読売書法会会友

五十嵐恵芳 伊藤 西光 工藤 和春

鈴木 壺敦 土田 晨光 中内 南麗

山田 紫華

◆謙慎書道会常任理事

大島 岐山 竹内 青紗

◆謙慎書道会理事

五十嵐恵芳 伊藤 西光 金澤 瑤月

小林 皓山 齊藤 悠花 鈴木 花仙

都竹 仙華 中堤 春里 橋本 桂雪

山田 紫華

第32回読売書法展

役員・事務局委員一覧(書象会関係)

◇ 企画委員	◎印は主任、○印は副主任
◇ 東京展実行委員長	田中 節山 市澤 静山
◇ 同実行委員長代行	田中 節山 市澤 静山
◇ 同副実行委員長	市澤 静山 内藤 望山
◇ 特別賞選考委員	田中 節山 市澤 静山
◇ 審査進行	市澤 静山 中村 巍山
◇ 本年度審査員	中村 巍山 山口 啓山
◇ 審査部委員	◎内藤 望山 山口 啓山
◇ 電算部	藤森 大節 坂牛 静心
◇ 作品部	小川 仙草 坂牛 静心
・役員搬入	宮本 耕成
・公募搬入	藤森 大節 小湊 石峯
・各展	◎柳澤 玄嶽 小湊 石峯
・搬出	畑中 高山 杉山 窓影
◇ 頭部	◎山口 啓山 竹内 藍山
	藤森 大節 藤森 大節

平成27年度 書象会夏季合宿錬成会のご案内

今夏の書象会夏合宿は、日本の名湯の筆頭にあげられる草津温泉で開催されます。会場は草津でも最大級の規模を誇る、高級感の漂う老舗『ホテル櫻井』です。

広々とした錬成会場を館内に提供していただけました。一人ひとりがゆったりとしたスペースで書技術向上に励むことができます。各部門ごとに担当者が懇切丁寧な指導をいたしますので、大きな期待を持ってご参加下さい。錬成後は透明感のあるお湯と白濁したお湯、2種類の温泉が疲れた体を癒してくれることでしょう。

書友と切磋琢磨できる恵まれた環境に身を置く書道三昧の日々。是非、憩いのひと時をお仲間と計画してみたいかがでしょうか。書象会にとって新天地での合宿、奮ってご参加下さい。

- ・期 日 8月4日(火)～6日(木)
 - ・会 場 草津温泉『ホテル櫻井』
 - ・費 用 46000円
 - ・定 員 200名
 - ・参加申込 書象会本部より送付の案内に従ってお申し込みください。(締切6月末日の予定)
- ・錬成部門 「半紙入門」「条幅入門」「書象展」
「謙慎展A」「謙慎展B」「日展」
- 会員以外の方は、書象会本部 ☎0422-53-9743 へお問い合わせください。

五島美術館「春の優品展 ―和歌と絵画―」の感動

期日 四月二十三日(木)
会場 五島美術館

世田谷の閑静な住宅街に佇む五島美術館会場に足を踏み入れると、その予想外の広大な敷地に驚かされ、山里を散策するかの様な五〇〇〇坪の庭園には、天然記念物の辛夷の花や躑躅が咲き誇っていました。

当館学芸部長の名兄耶明先生から、美術館の成り立ち、そして所蔵品の鑑賞の手引きについてのレクチャーが四十分程ありました。当美術館は、創設者の五島慶太氏が、戦前から戦後にかけて蒐集した日本と東洋の古美術をもとに構成されており、国宝「源氏物語絵巻」は当館コレクションの根幹といえるものだとということ、また所蔵品は国宝五点、重要文化財五十点を含む五千点にのぼることなど、モニターを使って詳しくご説明いただきました。

五島美術館というと、茶道具の蒐集で有名だと思っていた私ですが、今回展示されたものだけでも、古今和歌集や和漢朗詠集など歌集の断簡が約三十点。絵画・短冊・卷子などが約二十五点と、古筆の所蔵の多さに大変驚きました。日頃の学習に使っている白黒の図版ではわからない運筆法、線の強弱や墨の濃さなどを間近で観ることができ、勉強になりました。中でも継色紙や高野切第一種、蓬萊切などの逸品を前にできたことは感動の連続でした。

本館建物は、和様空間の案出に秀でた芸術院会員の吉田五十八(いそや)氏の設計で、寝殿造りの意匠を取り入れた建築は、近代建築史における貴重な建造物といわれています。正面入口の外観には先に述べた国宝「源氏物語絵巻」の中で描かれている格子がデザインとなっていることも見所の一つとなりました。所蔵品、建造物共に大変見応えのある、画期的な鑑賞見学会でした。この企画を実現して下さった研修部の先生方に参加者一同感謝申し上げます。

(坂牛 静心記)



講師の名兄耶 明先生



開館当初の姿を留める本館



庭園にて記念撮影



レクチャーを40分程

第54回 書象展 会期中行事日程表

同会期にて1階「日本の書展」にも多くの書象会員作品が展示されています。

6月11日(木) 午前10時 開展
6月12日(金) 午後2時 ギャラリートーク 杉山暁雲先生
6月13日(土) 午後2時 ギャラリートーク 内藤望山先生

6月14日(日) 午前11時 第46回全国学生書道展講評会(学生展展示室)
午後2時 支部長講習会(3階研修室)
午後4時30分 俊英選抜五人展出品者インタビュー

6月15日(月) 午後2時 ギャラリートーク 中村巍山先生

6月16日(火) 休館日

6月17日(水) 午後1時30分 実技講習会(3階研修室)
午後4時 ギャラリートーク 樋口玄山先生

6月18日(木) 午後2時 ギャラリートーク 虎井暁鐘先生

6月19日(金) 午後2時 ギャラリートーク 市澤静山先生

6月20日(土) 午後2時 ギャラリートーク 二瓶嶽風先生

6月21日(日) 午前10時30分 読売書法展添削会(3階研修室)
午後2時 第46回全国学生書道展講評会(学生展展示室)
午後4時30分 授賞式
午後6時 閉展

5月23日謙慎書道会総会で組織変更がありました。
新役員を紹介します。

謙慎書道会役員

平成27年5月現在

- | | | | | | |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| <input type="checkbox"/> | 名誉顧問 | 海部 俊樹 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 最高顧問 | 梅原 清山 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 顧問 | 新井 光風 | 樽本 樹邨 | | |
| <input type="checkbox"/> | 会長 | 鈴木 春朝 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 副会長 | 田中 節山 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 総務 | 岩井 韻亭 | 植松 弘祥 | 中林 露風 | |
| <input type="checkbox"/> | 理事長 | 高木 聖雨 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 副理事長 | 市澤 静山 | 角元 正燦 | | |
| <input type="checkbox"/> | 事務局長 | 牛窪 梧十 | | | |
| <input type="checkbox"/> | 副事務局長 | 有岡 郊崖 | 泉原 壽巖 | 師田 久子 | 和中 簡堂 |

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

日々精進

聖支部 中三

坂野 萌恵



小学三年生から続けてきた書道で特待生になることができ、とても嬉しいです。支えてくださった先生と両親に感謝します。まだまだ未熟なところがたくさんあるので、これからも日々精進していく所存です。支部長先生より一言 信念を持ち真剣に向かう姿は皆のお手本です。おめでとう！高校受験もこの集中力で頑張ってください。

あこがれの…

八潮支部 中一

斉藤 実里



私は小学校二年生の時から書道を習い始め、あこがれの特待生になったのでとても嬉しいです。これも、先生がご指導して下さったお陰です。本当にありがとうございます。次は硬筆も特待生になれるようがんばります。支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。審査評を頂き嬉しい事でした。線の美しさを持ち続け前進して下さい。

目標達成

高社支部 中三

畔上 直也



小学四年生から六年間習字をやってきて、なれるわけがないかと思っていた特待生に最後のチャンスでなることができました。これは先生の指導のおかげです。ありがとうございます。支部長先生より一言 お兄さんが成し得なかった特待生合格を果しました。勉強と部活の両立に加え書道も良く頑張りました。

特待生になって

一葉支部 中二

山本 雄大



幼稚園の時から八年間ようやく特待生になる事ができました。中学になり通える日が減り練習も思うようにできませんでしたが先生のおかげでここまで上手くなる事ができました。本当にうれしいです。ありがとうございます。支部長先生より一言 左ききで倍の努力が必要だったかと思えます。小さい時から根気強く頑張りましたね。おめでとう!!

感謝の気持ち

北府支部 中三

豊田 萌恵



私は、小学校二年生の時に書道を始め、ついに念願の特待生になることができました。中学生になると部活があり、大変でしたが続けてきて良かったです。ここまで支えてくれた先生や家族に感謝します。支部長先生より一言 特待生おめでとう。陸上部の練習で疲れていても弱音を見せずに頑張りました。継続は力なりですね。

受験の前に

珠悠支部 中三

石田 愛



私は小学二年生から書道を始めました。中学二年生から特待生試験を二回受けてきましたが、二回とも不合格でした。受験前の最後の試験。毛筆と硬筆同時に合格しました。先生のおかげです。ありがとうございます。支部長先生より一言 特待生試験二冠おめでとう。高校生になっても楽しみながら、多くの書に触れ合い、共に学びましょう。

五年たってやっと…

中央支部 中二

仲田 歩未



小学三年生からずっと習字一筋でやってきたので、特待生になれたときは、感激のあまり泣いてしまいました。ここまでこれたのは、恩田先生のご指導があったからです。本当に感謝します。ありがとうございます。支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。真剣にお稽古している努力が実を結びました。益々上達して下さい。

続けて良かった

李光支部 中三

金子 龍ノ介



僕は、小学校二年生から始めた書道で特待生になれてとてもうれしかったです。中学に入って部活などで大変でしたが、続けてきてよかったです。毛筆も特待生になれるように頑張りたいです。ありがとうございます。支部長先生より一言 勉強、部活と忙しい中、よく頑張ってきました。その努力が形となり本当によかったです。おめでとう。

感謝

富士見支部 中三

有光 麻緒



私は、小学校二年生の頃に習字を習い始め、中学校三年生でやっと毛筆の特待生になることができました。特待生になることができましたのは先生のおかげです。本当に今までありがとうございます。支部長先生より一言 特待生合格おめでとう!!部活や塾通いで忙しい中、最後まで頑張った結果です。更なる飛躍を期待!!

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

美菜支部

小四 高橋 真彩



一年生の時自分から書道を知りたいと言って始めた真彩さん。絶対やめないと頑張っています。アドバイスにも真剣に耳を傾け上手な字を書いています。

京都支部

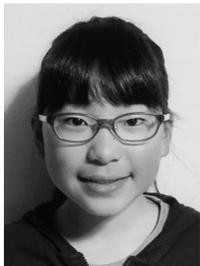
小六 仲田 一貴



礼儀正しく明るい一貴君。学校では児童会会長をやり活躍しています。教室に来る時は笑みを忘れず挨拶して通ってきます。字も懸命に書き楽しみの一人です。

虹苑支部

小六 内田 樹



バドミントン、スキー、習字と意欲的な樹さん。市の書き初め展の代表になり、お父さんから大筆のプレゼントがありました。今後も期待しています。

玄嶽支部

小六 松村 裕太



優希奈さんは、代表委員に選ばれ、テニスをする活発な女子。堂々とした文字を書きます。裕太君も負けず嫌いな元気な男子。しっかりと文字を書きます。

麗墨支部

小六 西島 匠



空手の型が決まる匠くん。算数図工が得意で将来はゲーム開発という位ゲームが好き。書は持ち前の集中力でめきめき上達。今後が楽しみです。

神奈川支部

小六 内野 晴菜



左利きですが、二年生から右手で筆を持ち、努力を重ね、味のある力強い線を書くようになりました。学校では実行委員。料理も出来る元気なお嬢さんです。

飯山支部

小三 小幡 美直



元気いっぱい兄妹です。いつも明るい話題を提供してくれ、和やかな中で練習に励んでくれています。今後もこつこつと努力し前進して行ってほしいです。

玄黙支部

小四 布山 愛



お茶に英語に水泳他、いろんな分野に挑戦中。持ち前の芯の強さに更に磨きをかけ実に来るが楽しみです。最近は、しとやかに手芸も始めました。

聖支部

中二 木藤 南菜海花



ピアノ、吹奏楽部と忙しい中集中力抜群、黙々と取り組む菜花さん。大らかで力強い字の南海さん、書展に入賞する度、自信もつきました。この調子で！

若葉支部

小六 伊藤 裕也



サッカー好きな裕也君は地元の一チームの応援によく行き選手の手も集めています。書道もサッカーのようになんか練習上手になっっています。

伊奈支部

小六 深堀 愛



非常に頑張り屋さんの愛ちゃん。四人兄妹の長女で妹の面倒をよく見ています。好きな教科は音楽、将来の夢は硬筆の先生。今後も期待しています！

上尾支部

小四 竹村 柑太



得意は体育。クラブ活動は昔遊び、地区の郷土かるた会では準優勝ノお家の手伝いも出来感心。毛筆、硬筆共手本をじっくり見書きめきめきと上達です。



△隷書条幅▽ 評 露崎 玄峯

涛 仙 手本に忠実で全体感よくまとめた。

小 楓 逆筆が効いて波法にネバリあり。

霽 苑 墨量豊かで潤渴の対比が見事。

真 意 文字の大きさが適切で基本に忠実な作。

康 春 やや淡墨ながら伸びやかで深みのある作品。

淳 華 横画が重厚で、力強さがある秀作。

薄 山 全体感、布置よく沈着にまとめた。

静 秀 豪快な筆緻で波たくに妙味あり。

△仮名条幅随意▽ 評 中村 巍山

緑 水 大胆な運筆でよい。練度の跡がでている。

壺 水 料紙に墨色をうまく合わせた秀作。

恵 香 太めの線で連綿の流れよく、潤渴もよい。

△通信条幅▽ 評 二瓶 嶽風

大久保喜泉 切れ味の鋭い線で全体感良く書けている。

嶋埜壺玉 重厚な線に動きと明るさを見せた秀作。

青柳緑水 大胆かつ繊細。豊かな表情あり。



基本課題

評 高瀬 霞山

清 香 全体に緊張感があり、格の高い作です。
 静 バリの基本を忠実に全体構成も見事。
 秀 山 軽く強くメリハリの効いた調和抜群の作。
 秀 麗 熟達した運筆で、骨力ある安定した作。

研究課題

評 芦川 臨泉

静 翠 洗練された線質、形ともによい。抜群。
 扇 花 重厚な中に清澄さあり。落着いた作。
 竹 虹 含墨で特徴を美事にとらえ、沈着な作。
 雨 虹 うまい。形、線表現共によい。健康的。

古典研究

評 中村 巍山

花 仙 ノミで刻んだ骨格、鋭角な線がよい。
 直 子 線にキレのある作。強さを包含してよい。
 硯 心 伸びのある線で六朝の形を捉えている。
 梓 虹 丁寧であるが格調の高い臨書となった。

師範部

△楷書△ 評 荻田 光山

象 月 文字校正が明るく、線質も伸びやか。
 香 窓 横画、左払い共に伸びやかで大変印象的。
 壺 玉 懸腕が効いて、健康的な表現を感じる作。
 恵 爽 濃墨を上手に扱い、一点一画揺るぎない。
 白 葉 起筆から終筆まで神経の行き届いた秀作。
 溪 風 真面目な学書態度を思わせる佳作。
 弘 子 含墨よく、力強く書こうとの意伝わる作。
 鶴 苑 紙面から筆を離さない如くの運筆が見事。



竹 鷗 同太の表現が力強く、立体感ある佳作。

成 華 明るく、伸びやかな表現が魅力的。

統 華 細身の統体で、文字の美しさが際立つ作。

光 紗 起筆と縦画が印象的で、含墨も効果的。

禾 苑 自然な書きぶりで、気負いのない秀作。

葉 草 運筆が軽やかで、力味のない佳作。

昭 子 布置がよく、紙面の明るさが大佳。

紫 代 やや小ぶりだが、うまいと言わせる作。

△仮名▽ 評 竹内 墨洋

翠 山 潤筆の正確さ渴筆の強さを自在に表現。

香 琳 前半のスピードをおさえ大きく運筆した。

春 清 中盤の軽快な渴筆がリズムを生んでいる。

京 春 静かな動きが作品に上品さを生んでいる。

京 香 ゆったりとしてのびのびとした線質。

壺 藍 渴筆をおさえ穏やかな作品にまとめた。

成 苑 貫通力のある作品。シンプルさが新鮮。

映 雪 行間を広げにとり全体にゆとりを出した。

汪 静 動と静のバランスが見事。筆圧も強い。

雅 幸 線の細太が作品の明るさを生み出した。

菖 風 やわらかな曲線ながら強弱を表現した作。

久美子 正確な形でいいねにまとめられた作品。

中三 楓子 季節	二年 めつば	小四 寺井愛 三毛ねこ	六年 小林陽夏 朝光る日	中二 青山唯 自律の精神
六年 林田和真 大陸	小三 いたがきまい めつば	四年 湯本藍稀 三毛ねこ	小六 中嶋水咲 朝光る日	中三 咲菜 自律の精神
小四 宮本優香 風	小一 えれん いけ	三年 中 菊地あられ りひだ 手だ	小五 松永朱莉 母を 思う	高四 川崎彩夢 回轉 木馬
二年 やの太一 山	ももか いけ	小三 麻央 りひだ 手だ	練馬 小五 鈴木健太 母を 思う	中一 松本那奈子 回轉 木馬

学生部

評 恩田 静月

青山 唯 確かな運筆で堂々と書き上げ秀作。

島根咲菜 さわやかに空間がとれ見事です。

川崎彩夢 一点一画がしっかり書けました。

那奈子 名前の始筆、終筆まで正しく書け立派。

小林陽夏 文字の形をしっかりとらえています。

中嶋水咲 のびやかに雄大に書けています。

松永朱莉 やさしい線できれいに書けました。

鈴木健太 漢字とひらがなのバランスが大変良い。

寺井 愛 細いところを見せずに良く書けています。

湯本藍稀 腕がしっかり動きおおらかに書けました。

あられ 大きく力強く書けている秀作です。

鳴原麻央 お手本を良く見て上手に書けました。

祐一郎 形よくていねいに書けています。

ま い 心をこめて名前もていねいに書けました。

えれん とっても大きくりっぱです。

ももか ふでの入れ方が正しくできました。

半紙 随意

評 成瀬 恵苑

楓 子 軽妙な筆遣いで上手く行書字形を書いた。

林田和真 一点一画を正確に、力強くまとめた。

宮本優香 形よくていねいに堂々と書けました。

矢野太一 しっかりとてのびやかな力づよい字。

このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

		天心 三級 美佐子 教馬			八戸 準二 初段 和久 天道契 協神交
		苗 坂口 有佳 教馬			柏木 雅初 初段 九山 碩 天道契 協神交
		竹中 四級 田崎 洋美 教馬			紫華 天道契 協神交
		書集 杉野 一 教馬			八戸 一級 特ノ級 滝瀬 響山 教馬
		自産 六級 文子 教馬			藤井 有紀 二級 藤井 有紀 天道契 協神交
		この菜 七級 橋爪 里和 教馬			高杜 笹川 悠 天道契 協神交

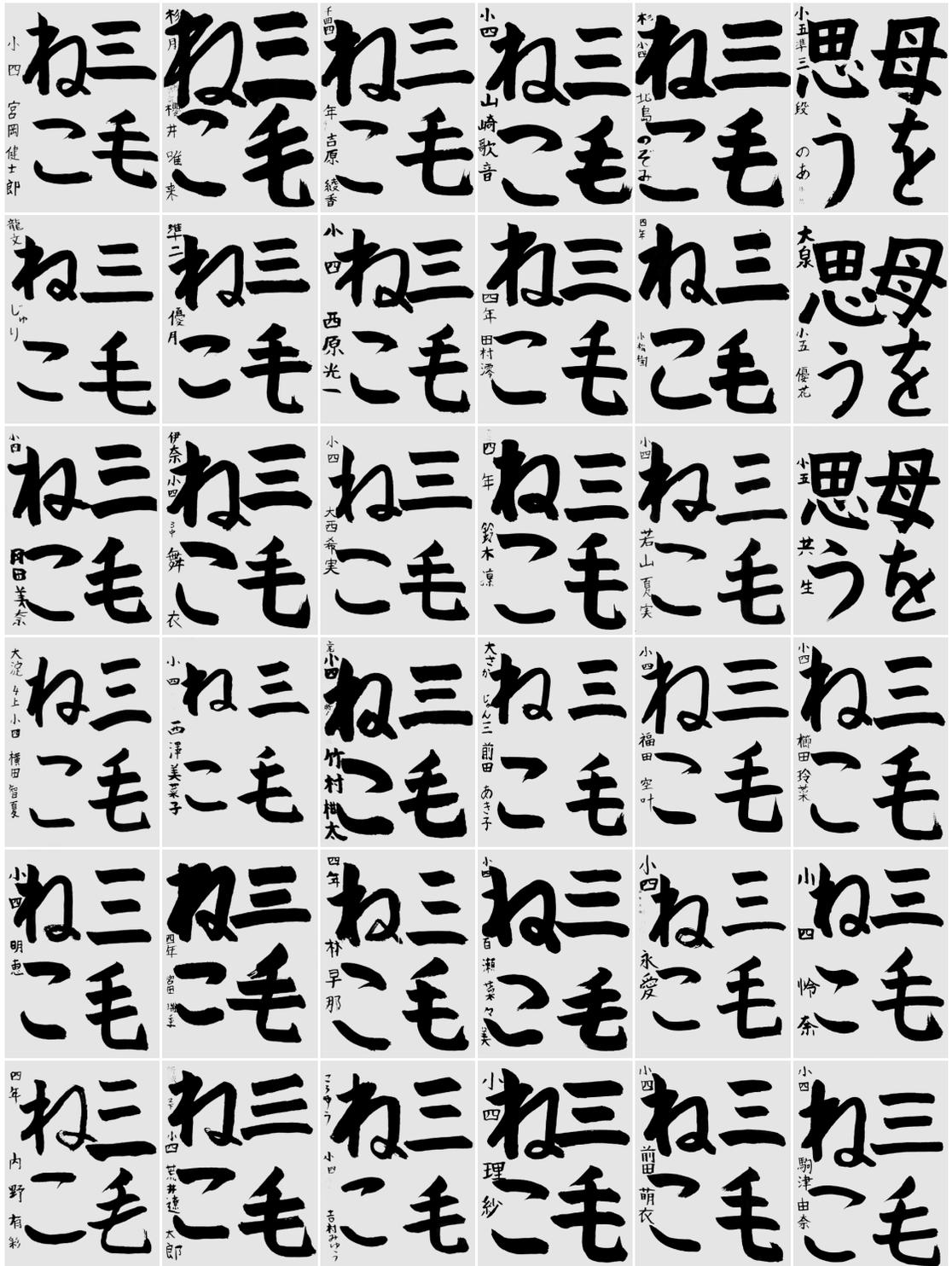
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|----|------|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|------|
| 長野 | 玄黙 | 杉野 | 董雪 | 松戸 | 八戸 | 倭光 | さわ | 八南 | 南渡 | 〔段位〕 | この | 自産 | 書集 | 竹華 | 茜心 | 玄心 | 高社 | 八戸 | 虹友 | 暁月 | 〔級位〕 | 柏心 | 書泉 | 汀楓 | 皓花 | 書風 | 高風 | 横二 | 八戸 | 樺森 | 茅野 | 静野 | 沙羅 | 花蓮 | 〔楷書〕 |
| 寺島 | 野村 | 前田 | 篠田 | 藤橋 | 名久 | 山田 | 梶原 | 佐藤 | 渡部 | 〔假名〕 | 橋爪 | 小宮 | 高橋 | 田崎 | 坂口 | 井上 | 笹川 | 笹川 | 滝瀬 | 平賀 | 紫華 | 丸山 | 丸山 | 丸山 | 藤井 | 高橋 | 古矢 | 工藤 | 林間 | 長島 | 長谷川 | 坂庭 | 大森 | かおる | |
| 百全子 | 真佐子 | 百合子 | 泰子 | 祥子 | 光扇 | 成子 | 美恵子 | 美恵子 | 福栄 | | 里和 | 山文子 | 真澄美 | 有佳 | 美佐子 | 悠 | 榮子 | 響山 | 響山 | 紫華 | | 翠花 | 理沙 | 有紀 | 登紀 | 真志 | 花雪 | 佳蓮 | 正純 | 美樹 | 洋羊 | かおる | | | |

小六 朝光 日る 河野友里	小六 朝光 日る 瑞子	中一 木回 馬転 美田 楓	中一 木回 馬転 加藤 咲歩	中三 自律の 精神 大羽	中三 自律の 精神 東優花
六年 朝光 日る 沖崎 帆乃佳	小六 朝光 日る 小関 大輝	有虹 中一 木回 馬転 伊藤 瑞希	中一 木回 馬転 相場 悠	中一 木回 馬転 赤坂 俊維	中二 自律の 精神 千井里 咲
朝光 日る 聡 蘭	小六 朝光 日る 安澤 天斗	中一 木回 馬転 伴野 希音	中一 木回 馬転 古田 福人	又音 中一 木回 馬転 高野 桜	船橋 中二 自律の 精神 平野 茉奈
小六 朝光 日る 月美	漢月 朝光 日る 準二 酒井 美結	中一 木回 馬転 門田 千	中一 木回 馬転 未 桜	一年 木回 馬転 さくら	中二 自律の 精神 優実
準小六 朝光 日る 准初段 直道 陸	六中 朝光 日る 桐原 萌	朝光 日る 諷	中一 木回 馬転 古川 遥	中一 木回 馬転 千葉 楓	中二 自律の 精神 耀子
小六 朝光 日る 坂口 愛佳	小六 朝光 日る 六橋 本和 弥	小六 朝光 日る 千寿	鈴鹿 中一 木回 馬転 江藤 駿	中一 木回 馬転 柴田 まどか	中二 自律の 精神 野愛

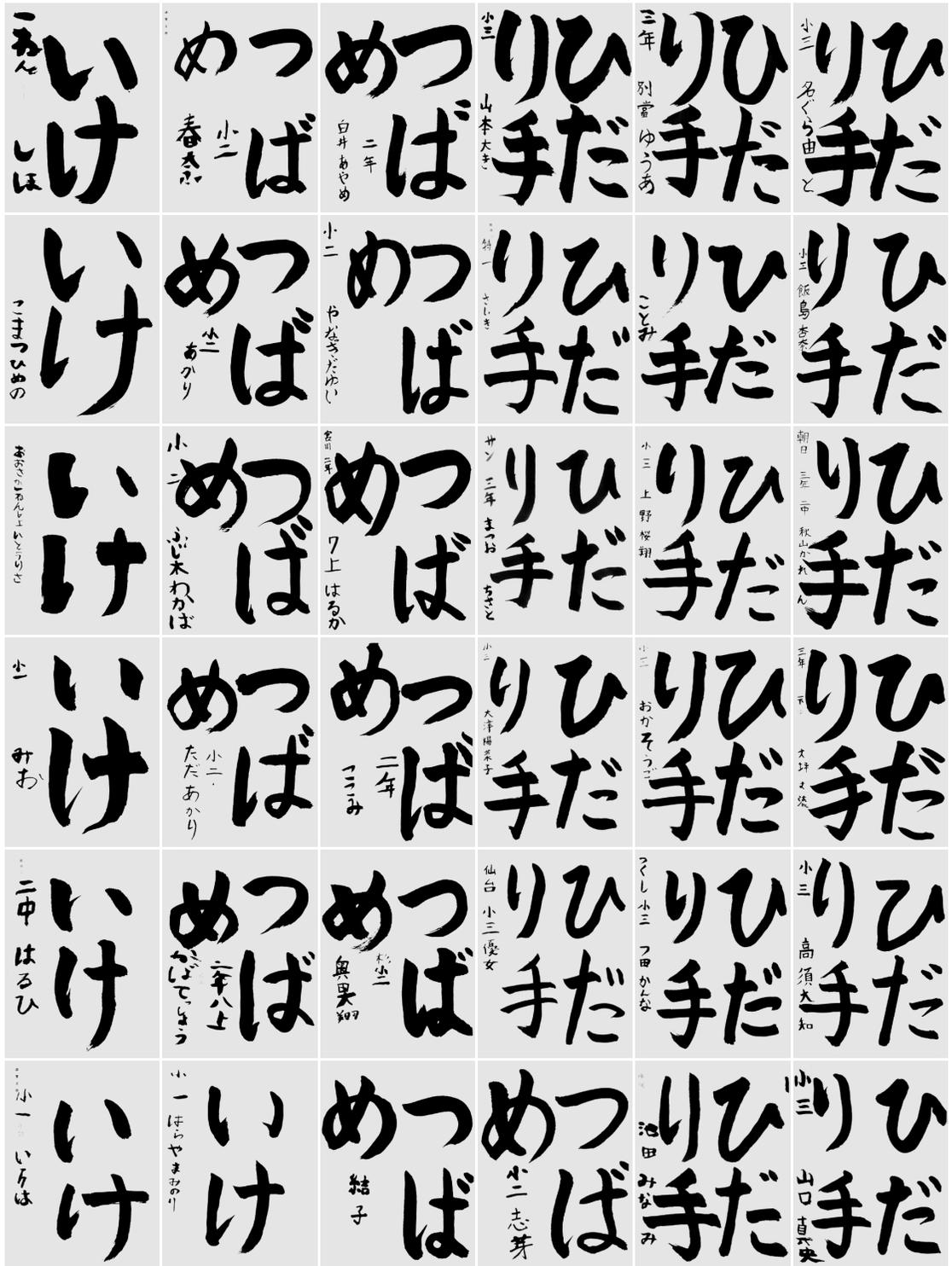
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|------|----|----|----|----|----|----|--------|
| 茜 | 茅野 | 光丘 | 玄樸 | 汀松 | 静翠 | 硯扇 | 石峯 | 溪月 | 竹華 | 葉月 | みな | 華雪 | 若松 | 【小六】 | 宝春 | 照澤 | 晴美 | 有虹 | 增田 | 江藤 | 古川 | 大家 | 光丘 | 中野 | 硯扇 | 北府 | 水代 | 霞墨 | 花蓮 | 久喜 | ひま | 【中一】 | 北府 | 有穂 | 荷葉 | 船橋 | 若竹 | 華雪 | 【中二・三】 |
| 坂口 | 真道 | 千葉 | 杉尾 | 沖崎 | 河橋 | 橋本 | 桐原 | 酒井 | 安澤 | 小間 | 山崎 | 鈴井 | 笹木 | 門田 | 伴野 | 伊藤 | 増田 | 江藤 | 古川 | 文野 | 古田 | 相場 | 加藤 | 柴田 | 千葉 | 古渡 | 高野 | 赤坂 | 茅沼 | 佐々木 | 五藤 | 小松 | 平野 | 若竹 | 平井 | 東 | 優花 | | |
| 愛佳 | 月美 | 朗 | 乃佳 | 友里 | 和弥 | 萌 | 結 | 天斗 | 大輝 | 璃子 | 千寿 | 諷 | 千 | 千 | 奈音 | 璃音 | 優樹 | 未桜 | 未桜 | 福人 | 悠 | 咲歩 | まどか | 楓 | 優維 | 大羽 | 大羽 | 野愛 | 耀子 | 耀子 | 茉奈 | 里咲 | 里咲 | 優花 | 優花 | | | | |

小五 清田波琉 母を 思う	五年 吉成 透 母を 思う	美 五年 津三 佐松 母を 思う	准六 畢志 母を 思う	内藤 小六 三櫻 内藤早紀 朝光 日る	六年 小林 万桜 朝光 日る
小五 田口 真寛 母を 思う	小五 だん 母を 思う	准六 三鏡 帰山 時音 母を 思う	雅 比 音 母を 思う	土筆 小五 和田美環 母を 思う	六年 邊 玲 朝光 日る
小五 李花 母を 思う	小五 萌絵 母を 思う	聖 小五 木とう 南海 母を 思う	小五 服部結奈 母を 思う	五年 佐生美空 母を 思う	六年 土屋 舞空 朝光 日る
五年 華 母を 思う	小五 石 原 菜花 母を 思う	李花 五年 準初 和月 母を 思う	小五 宮崎 莉唯乃 母を 思う	小五 阿部なつ美 母を 思う	小六 百瀬 友香 朝光 日る
五年 昆吉児 母を 思う	五年 中 唐木直陽 母を 思う	村田 邑香 母を 思う	小五 森本 直央 母を 思う	小五 西村 凜 母を 思う	准三 綿部 七海 朝光 日る
小五 大隅 彩加 母を 思う	小五 すずこ 母を 思う	一 葉 菜 小五 愛菜 母を 思う	五年 嵩 幸陽人 母を 思う	シバス 五年 弘美 母を 思う	小六 小林 明 朝光 日る

瑞祥 龍文 山愛 凜心 八潮 この 月 東陽 大象 玄機 綾華 小光 一葉 芙一 聖 溪月 美菜 源創 華雪 名東 たけ 雅 芙二 シー 玄黙 高社 好野 土筆
 大隅 齋藤 小山 加藤 田口 清田 塚本すずこ 廣本 石原 勝間 長岡 吉成 山崎 村藤 齊藤 和月 木藤 帰山 時音 佐松 陽人 森本 真央 宮崎 唯乃 服部 結奈 山口 花音 茂呂 果恋 庄村 弘美 西村 凜 阿部 美空 佐生 美環 和田 美楓 内藤 早紀 青雲 小林 蒼明 照澤 百瀬 友香 美五 綾部 七海 内藤 蒼明 硯 土屋 舞空 山愛 奥野 澄玲 大田 小林 万桜



神奈	みな	大淀	勝木	龍文	富士	新城	大田	柏心	伊奈	峰	杉月	虹友	平成	上尾	志摩	城彩	千曲	一絵	たけ	大阪	書之	湊	霞墨	倭	華雪	秀雪	名東	純心	杉	高社	有虹	竹華	大泉	珠悠
内野	木村	横田	岡田	鈴木	宮岡	荒井	宮田	西澤	上林	高橋	櫻井	吉村	林	竹村	大西	西原	吉原	鈴木	百瀬	前田	鈴木	田村	山崎	前田	鈴木	福田	若山	小松	北島	駒津	飯田	櫛田	藤曲	永田
有彩	明恵	智夏	美奈	授理	健士郎	遠太郎	瑞季	美菜子	舞衣	優月	唯来	弥優	早那	柑太	希実	光一	綾香	理紗	菜々美	晶子	凜	歌音	萌衣	永愛	空叶	夏実	樹	のぞみ	由奈	怜奈	玲菜	優花	乃愛	



華雪	英二	練馬	大阪	松聲	皓花	【小一】	中野	皓花	和	中野	一絵	華雪	松戸	杉	山愛	宮川	霞墨	好野	正桂	【小二】	仙台	サン	練馬	珠紅	土筆	凜心	若竹	若松	三池	蓮田	名東	朝日	玄黙	虹苑	
齊藤	清水	柴田	伊藤	小松	蒲	原山	岩村	多田	藤木	西野	佐々木	秋谷	奥田	柳沢	岩佐	柳田	結衣	白井	高橋	鈴木	大津	松尾	新井	池田	津田	岡	上野	青木	別當	山口	高須	大坪	秋山	飯島	名倉
彩葉	陽妃	里咲	姫野	志保	哲彰	実利	志保	朱里	若葉	若葉	春奈	大翔	心美	結衣	はるか	結衣	あやめ	志芽	志芽	大津	知聖	幸希	大輝	陽	葉菜	蒼悟	桜翔	琴美	悠愛	真央	丈流	華蓮	杏奈	由翔	

天衣無縫とて、詩や文章が少しの技巧もなく、自然にしかも完全であつてゐる。
佐藤中野

雲間から差し込む一条の光の輝きに言い知れぬ喜びと深い感動を覚えた。
鶴馬 中二 津田足 牛島春風

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
龍文 五 法田 河合野乃

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
若菜 五 二 長山 麻緒

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
高村 四 初 永吉由瑠子

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
佐藤 四 佐藤 文香

大きい	なこ	えで	み
なさん	おは	よう	ご
さい	ます		
こ	い	は	り

天衣無縫とて、詩や文章が少しの技巧もなく、自然にしかも完全であつてゐる。
沢芳

雲間から差し込む一条の光の輝きに言い知れぬ喜びと深い感動を覚えた。
飯山 二 年 七 段 清水 清衣

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
大東 小 三 古池 理乃

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
土筆 六 三 石崎 理乃

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
伊奈 四 真 荒木 真結

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
若菜 四 真 味本 真佳

大きい	なこ	えで	み
なさん	おは	よう	ご
さい	ます		
こ	い	は	り

おぼろみに島もあつたに
海原のたゆたふ波に立ちつゝ
雲
長野 静十

雲間から差し込む一条の光の輝きに言い知れぬ喜びと深い感動を覚えた。
船橋 中 二 六 段 仁木 さくら

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
三井 五 知 南 賢成

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
美菜 五 二 草刈 香奈

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
サトウ 四 女 杉本 美観

こいのぼりは風をうけて
青空をおよぎ矢車はカラカラ回ります。
大野 二 大野 理乃

大きい	なこ	えで	み
なさん	おは	よう	ご
さい	ます		
こ	い	は	り

雲間から差し込む一条の光の輝きに言い知れぬ喜びと深い感動を覚えた。
竹村 聖愛

雲間から差し込む一条の光の輝きに言い知れぬ喜びと深い感動を覚えた。
玄黙 中 四 段 鹿田 あり

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
三井 五 知 南 賢成

朝ごはんをよくかんで食べる
と、脳の働きが活発になりねむ気がさめます。
中 六 三 田嶋 由紀乃

〔硬筆〕

〔一般〕

玄樸 香 琳
映心 映 芳
長野 静 千
〔中学〕
たけ 竹村 聖愛
練馬 牛島 春風
飯山 清水 満衣
船橋 仁木 さくら
玄黙 廣田 あかり
〔小五・六〕
龍文 河合 野乃
大象 古池 理乃
玄樸 南 賢成

〔小三・四〕

有象 川口 菜々香
若葉 長山 麻緒
土筆 石崎 りさ子
美菜 田嶋 由紀乃
中央 草刈 香奈
高社 永吉 由瑠子
伊奈 荒木 真結
サン 杉本 美観
倭 佐藤 文香
華雪 味本 真佳
〔小一・二〕
有虹 大野 りさ
一葉 岡部 志保
書之 福司 陽菜
皓花 中山 にと

Table with 10 columns and 20 rows of Japanese text, likely a roster or schedule. Each cell contains names and various symbols (circles, triangles, squares) indicating status or category. The text is organized into vertical columns, with some larger text blocks at the top and bottom of the page.

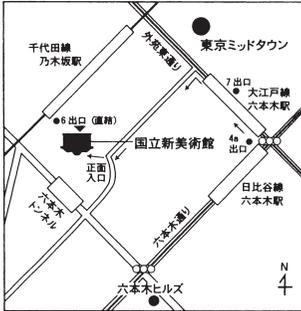
支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第54回

書象展

特別企画 俊英選抜五人展

特別コーナー 第46回全国学生書道展



会 期：2015. 6. 11(木)～6. 21(日)
 午前10時～午後6時 休館日6. 16(火) 入場は午後5時30分まで
 会 場：国立新美術館 2階C. D展示室
 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
 TEL. 03-6812-9921
 主 催：書 象 会
 後 援：読 売 新 聞 社
 公益社団法人 全日本書道連盟

会期中、下記の日程でギャラリートークを予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日 程 6月12日(金)、13日(土)、15日(月)、17日(水)、18日(木)、19日(金)、20日(土) (それぞれ、午後2時より)
 会 場 書象展会場第1室 (17日は午後4時より)
 講 師 書象会理事長・副理事長

なお、上記の他、14日(日)は午前11:00より、21日(日)は午後2:00より学生展特別コーナーにおいて第46回学生書道展講評会、14日(日)午後4:30から俊英展会場において俊英展出品者インタビュー、14日(日)午後2:00から3階研修室において支部長講習会が開催されます。17日(水)午後1:30より「信山流の技法」講習会が開催されます。奮ってご参加下さい。

書象会便り

◆謙慎書道会総会

恒例の謙慎書道会総会が五月二十三日(土) 上野精養軒において開催されました。大巾な役員改変がありましたので本誌27ページに紹介しました。なお明年一月四日(月)～十六日(土) 東京都美術館で開催される「TOKYO書2016公募団体の今展」出品者に宮本耕成先生が推挙されました。本会からの出席者は次のとおりです。

- 田中節山 市澤静山 内藤望山 虎井曉鐘 樋口玄山
- 山口啓山 柳澤玄嶽 宮本耕成 寺尾碩雲 藤森大節
- 竹内藍山 末永暁華 中内真意 小室墨汀 横田小泉
- 田中珠光 恩田静月 杉山窓影 鈴木草彰 渡辺華雪
- 山田紫華 大島皎山 竹内青紗 吉田節城 柳澤雪葉
- 浅倉恵芳 伊藤西光 金澤瑠月 齊藤悠花 鈴木花仙
- 小暮静翠 中堤春里 橋本桂雪

◆春季昇段級試験・師範・準師範・特待生試験審査終了

五月二十一日に締め切られた標記試験の審査が五月三十一日に終了いたしました。当番審査員の厳正な審査により、各位の昇格などが決定されました。

《書展予告》

☆赤塚暁月の生涯学習

会 期 七月四日(土)～七日(火)

会 場 泉の森会館(小田急線狛江駅下車一分)

主 宰 赤塚暁月先生

《書展報告》

☆謙慎 神奈川・静岡展

会 期 五月四日(月・祝)～十日(日)

会 場 神奈川県民ホール

出品者 石丸暁風、芦川臨泉(本会関係)

発行人 (有) 書象
 代表 上 條 貞 子

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六
 郵便番号180-0001 電話〇四三(五三)九七四三
 振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
 振替名義 (有) 書象
 印刷所 株式会社 リンクス

氏名